

教材名：2年生「名前を見てちょうだい」

②評価規準

知識・技能：語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて文章を音読することができる。(1)ク

思考・判断・表現：「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C・E)

主体的に学習に取り組む態度：進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って粘り強く音読であらわそうとしている。

①学習課題

つきたい力：物語のだいたいの内容がわかるようになる力をつけます。

そのために：登場人物の行動を「セリフ」から具体的に想像します。

言語活動：「えっちゃん音読劇」でたくさんの人にお話を知ってもらおう！

①教材と出会う（構造と内容の把握 精査・解釈）

【発問①】物語の登場人物は何人ですか

・最後に出てくる「あっこちゃん」にえっちゃんはこの不思議な体験を話すことを想定すると「セリフはないが登場人物に入れる」ことを確認。

【発問②】お話を読んで不思議に思ったことや、わからないことをみんなで出し合おう。(私の問いを立てる)

- ・えっちゃんはきつねや牛と出会ったとき、こわくなかったのかな
- ・大男となったときにこわくなかったのかな
- ・あっこちゃんとあったときにどんなお話をしたのかな
- ・「名前を見てちょうだい」って名前がふしぎ

【発問③】「へんねえはいくつありますか？あとのセリフを考えよう

- ・へんねえ①のあと

わたしのぼうしのはずなのに・・・ あれ？おかしいな??

- ・へんねえ②のあろ

え？また？ やっぱりへんだ！ おかしすぎる！

・①は不思議って気持ちが残っているけど、②は少し怒って言っている

- ・②はさらに不思議な気持ちが強くなって驚いている

【発問④】えっちゃんがおおきくなった理由はなになかな

- ・すごく怒っているから。・絶対とりもどしたいものだから

②考えを深める（考えの形成 共有）

【発問①】たくさんの人（参観で保護者）に音読劇を披露します。役割を決めます

- ・お話を知らない人に伝えるにはどうすればいいかな
- ・きつねが大男を見て帰るときの声ってどんな声と動きがいいかな

【発問②】チームに分かれて練習し、お互いにいいところを伝え合おう。そこから自分がどう音読をするのか考えよう。

- ・えっちゃんの「へんねえ」が1回目と2回目の言い方を変えていた
- ・大男がえっちゃんに向かうときゆっくりの動きがいい
- ・えっちゃんが絶対負けたくないという気持ちを伝えるために大きな声ではっきり言う
- ・きつねはにげるときに牛のことも見ていたからもっとあわててふるえているかも。もっとぶるぶるぶるえた感じで話そう

③言語活動（音読劇） ○成果と●課題

○参観日に保護者に向けて音読劇を披露するという言語活動を設定した。目的「誰に 誰のために」を明確にしているために、子どもたちも必死に役になりきって音読を披露することができた。

○みずから文字を読むことががてな A が、何度も読み返し、登場人物になりきったり、行動をイメージしたりしている姿があった。

●「私の問い」のテストをを行った結果、

④評価テスト

「私の問い」から1つえらび、自分なりの考えを書く

①なぜきつねも牛も帰ったのに、えっちゃんは帰らなかったのかな。

②えっちゃんは友だちのあっこちゃんにどんなお話をしたのかな。



単元計画 等  
はこちら